

南松山の住居



中心市街地から郊外へと向かう国道が、川を渡る手前の交差点に島のように残された街区に建つ住居。国道は片側3.5mの歩道付きで30m程の幅がある。交通量の多い国道と居住空間の緩衝帯として、住居の内部に「通り」を作ることにした。「通り」は幅1.4m、長さ7間、2層吹抜けの石敷きで、国道に對し1階は閉塞し、2階は開口としている。居住空間において感じる車の速さ・音をできるだけ消し、光だけを取りこんでいる。国道と反対側にも3尺間の裏通りを想定し、この2本の通りの両端を貫通通路で結び、行き止まりのない動線を作っている。



東面外観：外装は三河杉。準防火地域。近隣商業地域。

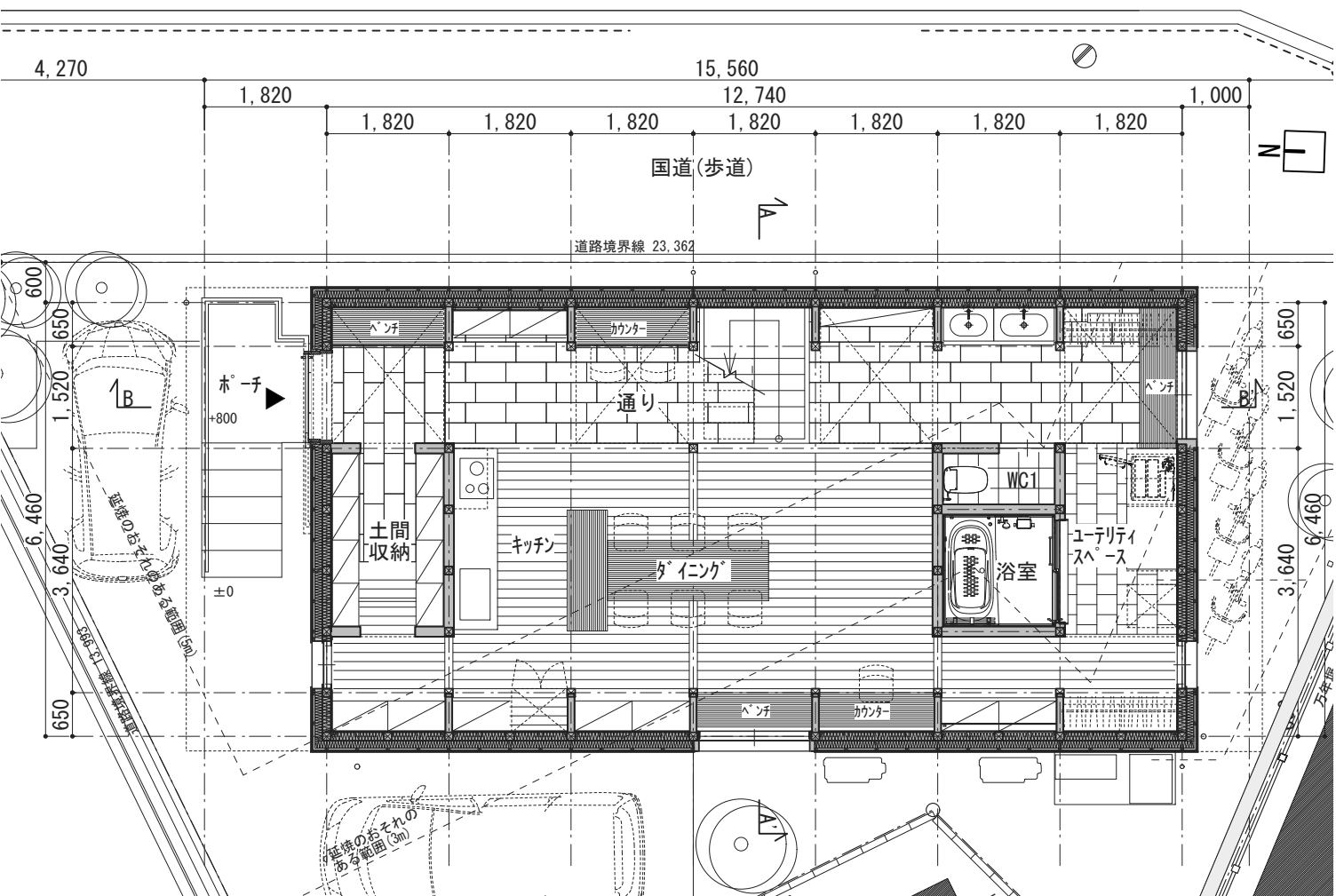
東西の両壁面は1間ピッチの耐力壁のリブをつけ、リブの間を各空間に応じたユニットとした。棚や洗面の他にベンチ、カウンターも組み込み、「通り」にはみ出せる居場所をあちこちに作った。内部は2ヶ所の手洗い以外は建具が無く、棚にも戸が無い。2階はがらんどろ。何も無いが軸組みはあらわしになっているので手を加えやすい。今は6人家族の住居であるが時が移ろえば人員も入れ替わる。住居ではないものになるかもしれない。メンバーや用途が変わったとしても人の暮らし・営みを支えることのできる、融通無碍な器としての建築を目指した。



アプローチ：CP型枠を積んだ階段は本体と縁を切ってある



付近見取図 S=1/2500：現在の国道は昭和51年までは路面電車が走り、柳生橋駅が終点だった。境橋は狭く、道路は南西へ向かっていた。



配置図 兼 1階平面図 S=1/100



がらんどうの2階はロフトレベルで梁を配置



玄関より南側へ「通り」を見通す



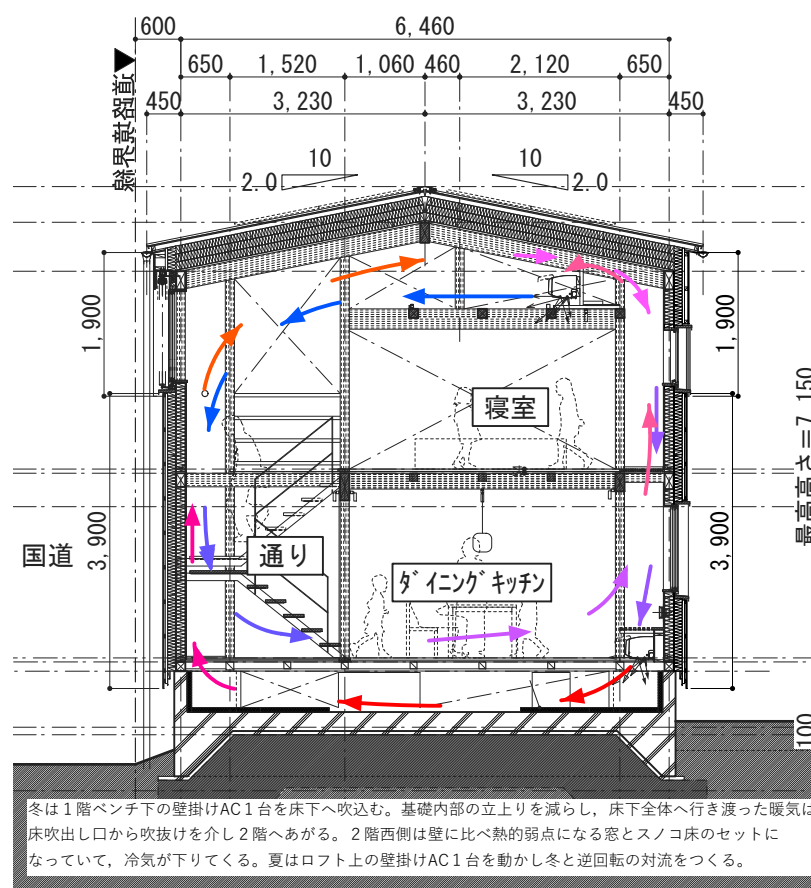
東西の壁面には1間ピッチで耐力壁のリブ



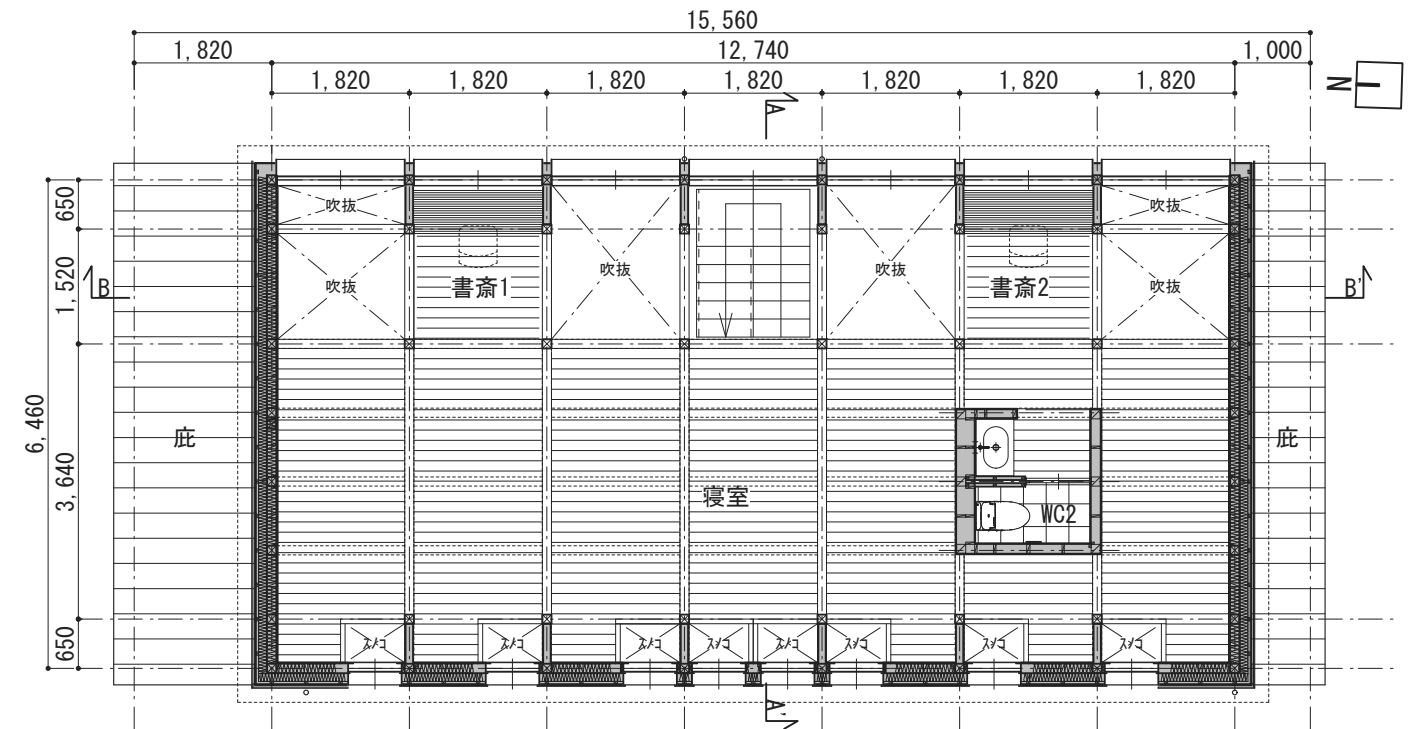
2階書斎2より「通り」を見下ろす



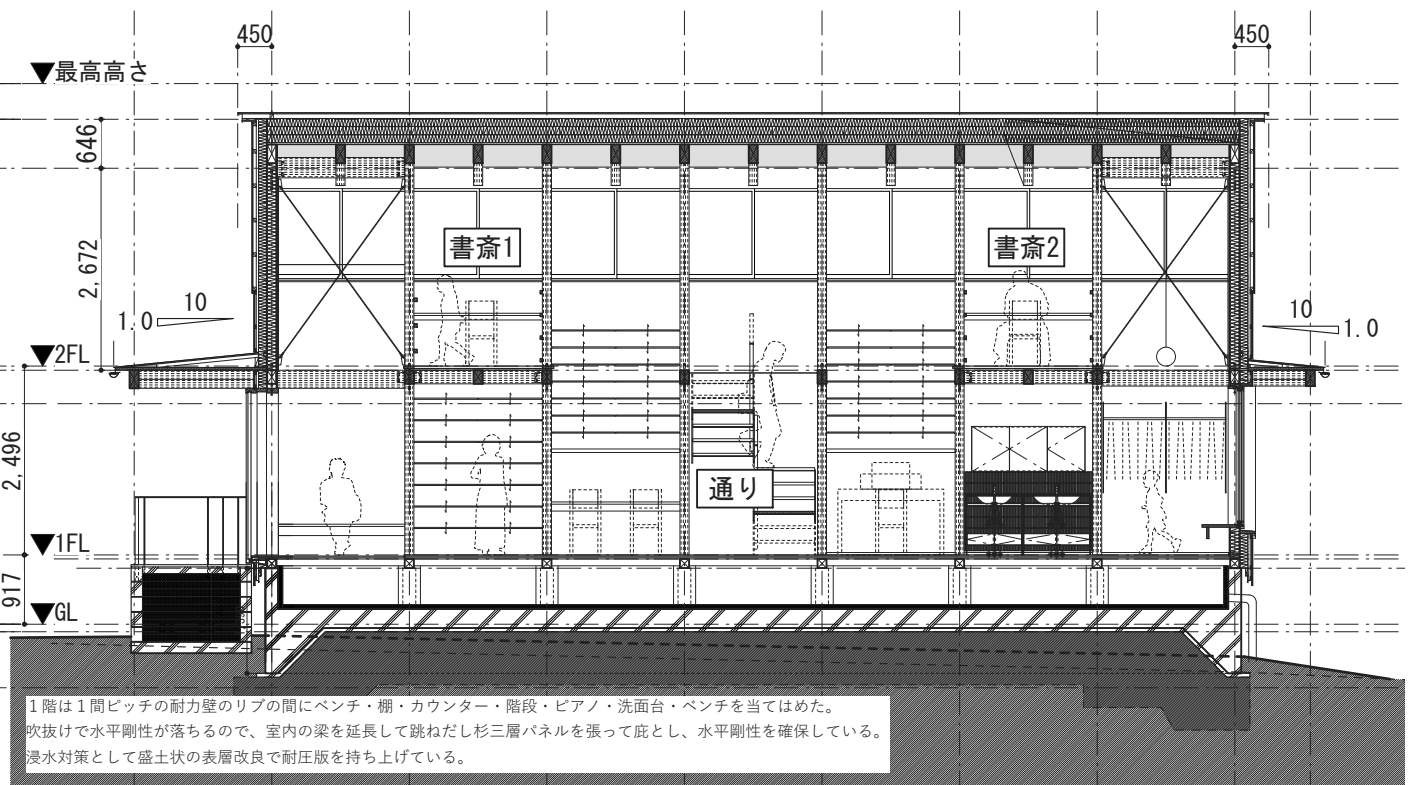
「通り」の南端：ベンチと窓と緑



A-A'断面図 S=1/100



2階平面図 S=1/100



B-B'断面図 S=1/100



1階東側を見る：吹抜からの光。壁際の床吹出口はグレーチング



2階東側を見る：連窓と吹抜け



北東側夜景：連窓からあらわしの梁組が見える